

○教員及び職員の数その他教員組織に関すること

区分	人数
講師	9
事務員	4

○入学、退学、転学、休学及び卒業に関すること

入学者（令和7年度2月1日現在）※令和7年度以外は通年の人数

年次	令和5年度	令和6年度	令和7年度
1年次	3人	3人	4人
2年次	0人	1人	3人
3年次	0人	0人	0人

退学者・転学者(令和7年度2月1日現在)※令和7年度以外は通年の人数

年次	令和5年度	令和6年度	令和7年度
1年次	1人	0人	0人
2年次	0人	0人	1人
3年次	0人	0人	0人

休学者(令和7年度2月1日現在)※令和7年度以外は通年の人数

年次	令和5年度	令和6年度	令和7年度
1年次	0人	0人	0人
2年次	0人	0人	0人
3年次	0人	0人	0人

卒業者(令和7年度2月1日現在)

年次	令和5年度	令和6年度
3年次	—	—

○通信教育実施計画に関すること

https://koutoku.ac.jp/kinkiosaka/downloads/public_2025.pdf

○校地、校舎等の施設及び設備に関すること

<https://koutoku.ac.jp/toyooka/outline/shisetsu/#himeji> ※姫路キャンパス

○授業料、入学その他の費用徴収に関する事

<https://koutoku.ac.jp/kinkiosaka/guide/tuition/>

※本校の学費内に含まれる

○生徒の学習活動、進路選択及び心身の健康に係る支援に関すること

<https://koutoku.ac.jp/kinkiosaka/learning/support/>

※姫路キャンパスでは、健康センターに常駐保健師を配置

令和7年度 近畿大阪高等学校（姫路キャンパス）学校評価

1 建学の精神と本校の教育目的

建学の精神

教育の目的は 人に愛される人 信頼される人 尊敬される人 を育成することにある

本校の教育目的

生命に対して深い畏敬の念や、社会人としての豊かな人間性と良識を持ち、広い世界観を持って社会に貢献する人材育成を目的とする。

- 1) 学業と仕事を両立し、社会を生き抜く力を育成する。
- 2) 他者の個性・特性を理解・尊重し、自己肯定感を育てる。
- 3) 社会に対する深い洞察力を身につけ、自ら将来を切り拓く力を育成する。

2 中期的目標

- 1 生徒の実態に応じた教育システムを確立する。
 - (1) 生徒並びに保護者が、相談しやすい環境を整備する。
 - (2) レポート等わからない問題について、気軽に質問しやすい環境を整える。
- 2 「確かな学力」を身に付けた上で、高校卒業資格を取得できるよう支援する。
 - (1) 各年次段階に応じて「確かな学力」が身に付くよう努める。
 - (2) 進路指導体制の強化により、進路実績の向上をめざす。
- 3 人権教育等を通して心の教育の充実に努める。
 - (1) 他者の長所と短所を受け入れ、個性等を理解する力を育成し、自己肯定感を高める。
 - (2) すべての命を大切に教育を行う。
- 4 通学意欲を喚起し、生徒間の親睦並びに相互交流を促す。
 - (1) 生徒が、興味関心のある多様なトライアルアワーの開講に努める。
 - (2) 学校行事を通し、仲間意識の涵養に努める。
- 5 情報発信・広報活動の充実に努める。
 - (1) 生徒・保護者への、情報発信並びに情報共有に努める。
 - (2) 本校の教育活動を、近隣中学校に限らず、広く紹介出来る様な広報活動に努める。
- 6 安心して学校生活を送れる様、最大限の配慮をする。
 - (1) 防犯・防災教育の充実に努める。
 - (2) 安心・安全の学校生活と相談体制の充実と強化を図る。

[自己評価アンケートの結果と分析]

自己評価アンケートの結果と分析 [令和8年2月実施分]

【概括】

令和7年度の姫路キャンパスは、開校から3年目を迎え、年度当初は1年次生3名、2年次生5名、3年次生の合計11名でスタートした。年度末（令和7年2月1日現在）の在籍生徒数は12名となった。少人数のキャンパスであるため、一人ひとりの生徒に対してきめ細かな対応を心がけてきた。本校の特徴である、カウンセリングマインドを持って生徒に寄り添う対応に努めた結果、相談体制や教員の理解に関する項目では高い評価を得ることができた。一方で、保護者への情報発信や家庭連絡の頻度、防災教育の周知などについては課題が残る結果となった。

【アンケート結果について】

アンケート回収率は生徒 41.6%（5 名/12 名）、保護者 50%（6 名/12 名）となった。少人数のキャンパスのため、回答数は限られているが、生徒・保護者の率直な意見を得ることができた。アンケート結果としては、教員の生徒対応や相談体制については高い満足度が得られた一方で、家庭への連絡や情報発信、防災マニュアルの周知などの項目で評価指標を下回る結果となった。これらの課題については、令和 8 年度以降の重点改善事項として取り組んでいく必要があると認識している。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の実態に応じた教育システムを確立する	(1)生徒並びに保護者が、相談しやすい環境を整備する。	・生徒支援と生徒並びに保護者への相談体制の強化・充実に努める。	ア. 生徒向けアンケート「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる。」の肯定的評価 70%以上をめざす。	ア. 生徒向けアンケート「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる。」の肯定的評価 100%であった。(◎)
			イ. 生徒向けアンケート「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」の肯定的評価 70%以上をめざす。	イ. 生徒向けアンケート「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」の肯定的評価 100%であった。(◎)
			ウ. 保護者向けアンケート「先生は、生徒の意見を聞いてくれて、子どもを理解している。」の肯定的評価 70%以上をめざす。	ウ. 保護者向けアンケート「先生は、生徒の意見を聞いてくれて、子どもを理解している。」の肯定的評価 100%であった。(◎)
	(2)レポート等わからない問題について、気軽に質問しやすい環境を整える。	・レポートに限らず、生徒がわからない問題がある場合、質問しやすい環境を整える。	ア. 生徒向けアンケート「授業が分かりやすく学校に行くのが楽しい。」の肯定的評価 80%以上をめざす。 イ. 保護者向けアンケート「子どもは、授業が分かりやすく、学校に行くのが楽しいと言っている。」の肯定的評価 70%以上をめざす。	ア. 生徒向けアンケート「授業が分かりやすく学校に行くのが楽しい。」の肯定的評価 80%であった。(○) イ. 保護者向けアンケート「子どもは、授業が分かりやすく、学校に行くのが楽しいと言っている。」の肯定的評価 50%であった。(△)

<p>2 「確かな学力」を身に付けた上で、高校卒業資格を取得できるよう支援する</p>	<p>(1)各年次段階に応じて「確かな学力」を身に付けさせる。</p> <p>(2)進路指導内容の充実により、進路実績の向上をめざす。</p>	<p>・卒業後の進路を各自で思い描けるよう、「確かな学力」を身に付けさせる。</p> <p>・進路指導部会を通し、進路指導内容の充実を図る。</p>	<p>ア. 生徒向けアンケート「教え方に工夫をしている先生が多い。」の肯定的評価 80%以上をめざす。</p> <p>イ. 生徒向けアンケート「選択科目の時間は工夫されていて、自分が学びたいことがらを選べる。」の肯定的評価 80%以上をめざす。</p> <p>ア. 生徒向けアンケート「学校は、進路についての情報を知らせてくれる。」の肯定的評価 70%以上をめざす。</p> <p>イ. 保護者向けアンケート「学校は、将来の進路や職業について適切な指導を行っている。」の肯定的評価 70%以上をめざす。</p> <p>ウ. 保護者向けアンケート「学校は、進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている。」の肯定的評価 70%以上をめざす。</p>	<p>ア. 生徒向けアンケート「教え方に工夫をしている先生が多い。」の肯定的評価 80%であった。(○)</p> <p>イ. 生徒向けアンケート「選択科目の時間は工夫されていて、自分が学びたいことがらを選べる。」の肯定的評価 60%であった。(△)</p> <p>ア. 生徒向けアンケート「学校は、進路についての情報を知らせてくれる。」の肯定的評価 80%であった。(◎)</p> <p>イ. 保護者向けアンケート「学校は、将来の進路や職業について適切な指導を行っている。」の肯定的評価 66.7%であった。(△)</p> <p>ウ. 保護者向けアンケート「学校は、進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている。」の肯定的評価 50%であった。(△)</p>
<p>3 人権教育等を通して心の教育の充実にも努める</p>	<p>(1)他者の長所と短所を受け入れ、個性等を理解する力を育成し、自己肯定感を高める。</p> <p>(2)すべての命を大切にする教育を行う。</p>	<p>・地域交流等を通して自己肯定感を高め、他者を尊重する姿勢を身に付けさせる。</p> <p>・LHR等を活用し、互いの人権を尊重することの大切さを理解させる。</p>	<p>ア. 生徒の要望に応え、地域と協力して文化祭を開催する。</p> <p>ア. 保護者向けアンケート「学校は、子どもに命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」の肯定的評価 70%以上をめざす。</p> <p>イ. LHRを活用し、インターネットと人権について学習する。</p>	<p>ア. 令和7年度は、生徒数が少人数であったため、学校行事としての文化祭は実施せず、阪南本校の潮騒祭への参加を推奨した。次年度以降、生徒数の増加に応じて姫路キャンパス独自の行事開催を検討する。(○)</p> <p>ア. 保護者向けアンケート「学校は、子どもに命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」の肯定的評価 66.7%であった。(△)</p> <p>イ. LHRを活用し、すべての学年で、「インターネットと人権について」学習した。(○)</p>

<p>4 通学意欲を喚起し、生徒間の親睦並びに相互交流を促す</p>	<p>(1)生徒が、興味関心のある多様なトライアルアワーの開講に努める。</p> <p>(2)学校行事を通し、仲間意識の涵養に努める。</p>	<p>・生徒にアンケートを実施し、興味のあるトライアルアワー等を企画する。</p> <p>・スポーツ大会や文化祭など各種行事を通して、生徒間の交流を深め、仲間意識の涵養に努める。</p>	<p>ア. 生徒向けアンケート「トライアルアワーに積極的に取り組んでいる。」の肯定的評価 70%以上をめざす。</p> <p>イ. 保護者向けアンケート「学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている。」の肯定的評価 70%以上をめざす。</p>	<p>ア. 生徒向けアンケート「トライアルアワーに積極的に取り組んでいる。」の肯定的評価 60%であった。(△)</p> <p>ア. 生徒向けアンケート「学園祭や校外学習などの行事は、楽しく行えるよう工夫されている。」の肯定的評価 100%であった。(◎)</p> <p>イ. 保護者向けアンケート「学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている。」の肯定的評価 66.7%であった。(△)</p>
<p>5 情報発信・広報活動に充実に努める</p>	<p>(1)生徒・保護者への、情報発信並びに情報共有に努める。</p> <p>(2)本校の教育活動を、近隣中学校に限らず、広く紹介出来る様な広報活動に努める。</p>	<p>・学校ホームページ、個人メール、チャット等を活用し、生徒だけでなく保護者への情報発信並びに情報共有に努める。</p> <p>・中学校訪問や教育相談会を活用し、本校の教育活動の理解の輪を広げるよう努力する。</p>	<p>ア. 生徒向けアンケート「評価の仕方や基準について、事前に示されており、学習の評価については、納得できる。」の肯定的評価 80%以上をめざす。</p> <p>イ. 生徒向けアンケート「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる。」の肯定的評価 70%以上をめざす。</p> <p>ウ. 生徒向けアンケート「学校からの連絡をきちんと確認している。」の肯定的評価 80%以上をめざす。</p> <p>エ. 保護者向けアンケート「学校は、教育方針を分かりやすく伝えている。」の肯定的評価 80%以上をめざす。</p> <p>オ. 保護者向けアンケート「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。」の肯定的評価 70%以上をめざす。</p> <p>ア. 中学校訪問を 50 校以上実施する。</p> <p>イ. オープンスクールをはじめ教育相談会を 10 回程度開催する。</p>	<p>ア. 生徒向けアンケート「評価の仕方や基準について、事前に示されており、学習の評価については、納得できる。」の肯定的評価 80%であった。(○)</p> <p>イ. 生徒向けアンケート「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる。」の肯定的評価 80%であった。(◎)</p> <p>ウ. 生徒向けアンケート「学校からの連絡をきちんと確認している。」の肯定的評価 80%であった。(○)</p> <p>エ. 保護者向けアンケート「学校は、教育方針を分かりやすく伝えている。」の肯定的評価 66.7%であった。(△)</p> <p>オ. 保護者向けアンケート「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。」の肯定的評価 33.3%であった。(△)</p> <p>ア. 姫路地域を中心に 38 校の中学校訪問を実施した。(△)</p> <p>イ. オープンスクール18回、合同教育相談会6回、個別教育相談を随時開催した。(◎)</p>

6 安心して学校生活を送れるよう最大限の配慮をする	(1)防犯・防災教育の充実を図る。	・避難訓練をはじめ、災害時に適切に対応できる防犯・防災教育を実施する。	ア. 生徒向けアンケート「学校で事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか、知らされている。」の肯定的評価 70%以上をめざす。	ア. 生徒向けアンケート「学校で事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか、知らされている。」の肯定的評価 80%であった。(◎)
			イ. 保護者向けアンケート「地震や台風などの場合の対応については、子どもや保護者に行動マニュアルが知らされている。」の肯定的評価 70%以上をめざす。	イ. 保護者向けアンケート「地震や台風などの場合の対応については、子どもや保護者に行動マニュアルが知らされている。」の肯定的評価 50%であった。(△)
			ウ. 保護者向けアンケート「学校は、防災や防犯、事故防止に配慮し、施設・設備の点検を行っている。」の肯定的評価 70%以上をめざす。	ウ. 保護者向けアンケート「学校は、防災や防犯、事故防止に配慮し、施設・設備の点検を行っている。」の肯定的評価 66.7%であった。(△)
	(2)安心・安全の学校生活と相談体制の充実と強化を図る。	・スクールカウンセラーや公認心理師との連携を図る。また、養護教諭が常駐することにより、生徒がより安心して学校生活を送れるようにする。	ア. スクールカウンセラーや公認心理師との相談件数8件以上をめざす。	ア. スクールカウンセラーや公認心理師との相談件数、生徒 2 件、保護者 3 件、合計 5 件。他に心理検査 1 件。(△)
			イ. 保護者向けアンケート「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる。」の肯定的評価 70%以上をめざす。	イ. 保護者向けアンケート「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる。」の肯定的評価 100%であった。(◎)
			ウ. 保護者向けアンケート「子どもの心身の健康について適切な指導を行っている。」の肯定的評価 70%以上をめざす。	ウ. 保護者向けアンケート「子どもの心身の健康について適切な指導を行っている。」の肯定的評価 83.3%であった。(◎)

総括

令和7年度の姫路キャンパスは、生徒数 11 名と少人数ながら、一人ひとりの生徒に対してきめ細かな対応を行うことができた。特に、教員の生徒対応や相談体制に関する項目では、生徒・保護者ともに高い評価を得ることができた。一方で、保護者への情報発信や家庭連絡、防災マニュアルの周知などについては課題が残った。

令和8年度以降は、以下の点を重点改善項目として取り組む必要がある。

【重点改善項目】

- 1 保護者への連絡・情報発信の強化（定期的な学校通信、個別連絡の充実）
- 2 防災・防犯マニュアルの保護者への周知徹底（配布と説明会の実施）
- 3 選択科目の内容充実とトライアルアワーの魅力向上
- 4 進路に関する家庭への情報提供の充実
- 5 中学校訪問の計画的実施と広報活動の強化

これらの課題に対して、教職員一同が協力して取り組み、生徒・保護者の満足度向上に努めていく所存である。